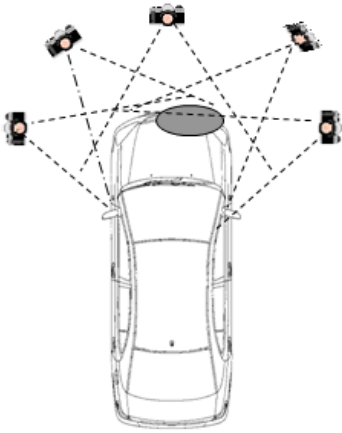


写真撮影方法

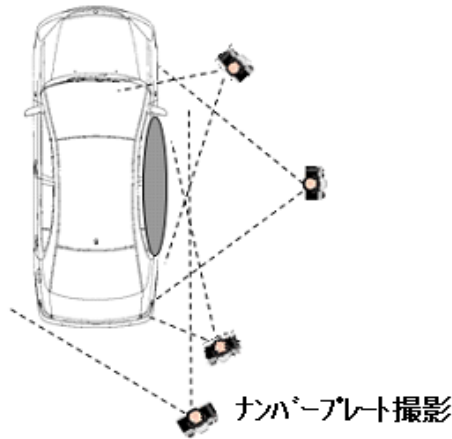
- 写真枚数4～9枚程度でわかりやすく。場所を確保して構図を考え全体から細部へと撮影する。
- デジタルカメラの設定については、2ページ目に記載があります。

1. 車両全景(外観撮影)

- ナンバープレートが判別できるような全影写真を必ず撮影。
- 損傷箇所を中心に、損傷全体がわかるように3～5方向から撮影。
- 撮影するカメラの高さは損傷の中心か、それより少し高めで撮影。



【前面が損傷した場合】



【右側面が損傷した場合】

ナンバープレート撮影

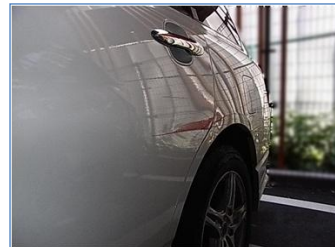
2. 内部撮影

- 内部に損傷がある場合
 - ・ 前部 → ボンネットを開けて【エンジンルームを撮影】
 - ・ 側面 → ドアを開けて【ドア開口部を撮影】
 - ・ 後面 → トランクを開けて【トランク内を撮影】



3. 詳細撮影

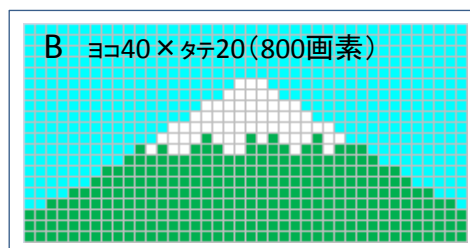
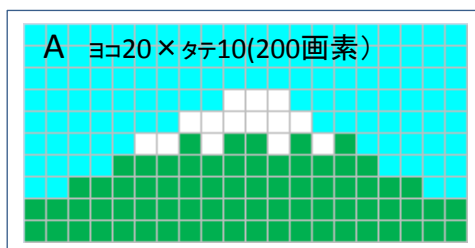
- 外板パネル
 - ・ 変形の程度・範囲がわかるような撮影。
 - ・ わずかな凹みの場合は、斜め(すかし)方向からの撮影や、他物の投影像を写し込むのも有効です。
- 内板・骨格部位
 - ・ 変形状態がわかるような撮影
- メカニカル部位
 - ・ 損傷状態がわかるような撮影
- 作業中の写真
 - ・ 着工前の写真で損傷範囲が分かり難い場合に撮影



※ 以下の内容は、コグニセブンに画像を取り込む場合や、コグニフォトベースへの画像登録の際に、ご利用されるデジタルカメラの設定について説明しています。

1. 画像サイズについて

- デジタルカメラで撮影された画像は、細かな点(ピクセル)が集まって画像を表現する仕組みとなっています。画像サイズとは、「そのピクセルがヨコに何個、タテに何個あるのか」ということであり、「ヨコ×タテ」で表わされます。
- 「ヨコ×タテ」で計算された数値は『画素数』といい、例えば画像サイズが「2,048ピクセル(ヨコ) × 1,536ピクセル(タテ)」の場合、画素数は『約315万画素』となります。
- 一般的にこの画素数が大きくなればなるほど、画像自体はきれいで鮮明になります。例えば下のイメージ図のように、画像サイズA「20×10(=200画素)」、B「40×20(=800画素)」では、Bのイメージ図の方が鮮明になります。



- 画像サイズが大きいとそれに比例してファイルサイズが大きくなってしまい、ハードディスクの容量を圧迫したり、コグニセブンに画像を取込む際の動作が遅くなったりすることがある等、注意が必要です。
- コグニセブンに画像を取り込む場合やコグニフォトベースで画像登録する場合、画像のサイズが大きい時は、サイズを「640×480」に縮小する機能がありますので、その活用をお勧めしています。
⇒下記の『ヒント集:縮小機能について』をご参照ください。

2. 画質について

- デジタルカメラの設定で、高精細、ファイン、スタンダード、ノーマル、エコノミー等があります(カメラメーカーによって名称が異なります)。これらは、撮影時、画像ファイルを保存する際の「データの圧縮率の違い」を表わしています。
- 高画質な設定にすると画像サイズを大きくしたときと同様、ファイルサイズが大きくなりますので、一番ファイルサイズが小さくなる画質(「ノーマル」や「エコノミー」など)をお勧めします。

ヒント集:縮小機能について

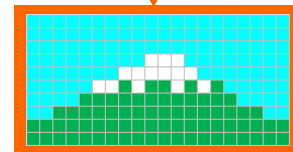
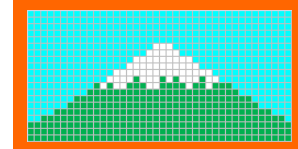
● 縮小機能の仕組み

- コグニセブンに画像を取込む時や、コグニフォトベースに画像登録時、「640×480」より大きな画像サイズで撮影した画像を、「640×480」のサイズに縮小することができます。

● テクニック

- デジタルカメラの機種にもよりますが、デジタルカメラの設定で画像サイズを「640×480」に設定し撮影しても、ファイルサイズが大きくコグニフォトベースで画像登録できない場合があります。
- その場合は、デジタルカメラの画像サイズを「640×480」より大きく設定し、コグニセブンやコグニフォトベースの縮小機能を使うと、予め「640×480」で撮影した画像よりファイルサイズを小さくすることができますので、この方法をお試しください。

《ファイルサイズ 大!》



《ファイルサイズ 小!》